

評価結果（素案）・提言（素案）に  
に対する法人意見及び評価委員会の  
対応（案）

平成20年8月

平成19事業年度の業務実績に関する評価結果（案）に対する意見書

公立大学法人和歌山県立医科大学

<p>項 目</p>	<p>項目別評価 1 教育研究等の質の向上 (2) 研究 【3ページ、3項目め】 「がん診療体制の充実等」</p>
<p>修正箇所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>病歴部において、院内がん登録を実施したこと</u>により、附属病院におけるがん診療体制の充実が図られた。</li> </ul>
<p>修正内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>院内がん登録の実施、緩和ケアチームや化学療法センターの設置等</u>により、附属病院におけるがん診療体制の充実が図られた。</li> </ul>
<p>修正理由</p>	<p>平成19年度においては、院内がん登録だけでなく、病院全体で様々な取組が行われ、これが合わさり、がん診療体制の充実が図られたものと考えます。</p> <p>例えば、緩和ケアチームでは、医師、看護師、薬剤師、MSWが職種の垣根を越え連携し成果をあげており、化学療法センターでも各科ごとに行われていた同療法を院内統一基準の下で実施するよう取り組んでいます。</p>

<p>評価委員会 の対応 (案)</p>	<p>○修正文案</p> <p>法人の修正案どおりとする。</p> <p>○説 明</p>
------------------------------	---

平成19事業年度の業務実績に関する評価結果（案）に対する意見書

公立大学法人和歌山県立医科大学

<p>項 目</p>	<p>項目別評価 1 教育研究等の質の向上 (4) 地域貢献 【4ページ、4項目め】 「がん診療連携拠点病院の役割等」</p>
<p>修正箇所</p>	<p>・ <u>高度先進医療の県下中核病院として県民に広く提供するとともに、がん診療連携拠点病院としてがん診療の支援を行う医師の派遣を行った。</u></p>
<p>修正内容</p>	<p>・ <u>県内の高度先進医療の中核病院として当医療を県民に広く提供するとともに、がん診療連携拠点病院としてがん診療に係る医療従事者への研修を実施し、がん診療の均てん化に努めた。</u></p>
<p>修正理由</p>	<p>がん診療連携拠点病院として、初年度である平成19年度においては、拠点病院事業で医師派遣を行う前段階として、まず同拠点病院や地域の中核病院による協議会を立ち上げ、当協議会を中心としたがん診療に係る研修会を開催し、県下一体となって取り組んでいくという意識の醸成を図るとともに、先進事例を紹介するなどがん診療の均てん化に努めたところです。</p> <p>※研修会概要 県外の著名な講師を招聘し、緩和ケア及び化学療法をテーマに2回開催（参加人数：150人）</p>

<p>評価委員会 の対応 (案)</p>	<p>○修正文案  法人の修正案どおりとする。</p> <p>○説 明</p>
------------------------------	---

平成19事業年度の業務実績に関する評価結果（案）に対する意見書

公立大学法人和歌山県立医科大学

<p>項 目</p>	<p>項目別評価 1 教育研究等の質の向上 （6）国際交流 【5ページ、2項目め】 「国際的な災害救助や医療技術支援」</p>
<p>修正箇所</p>	<p>・ 国際的な災害救助や医療技術支援については、<u>現在他大学の参加は見られないが、今後の率先した参画が望まれる。</u></p>
<p>修正内容</p>	<p>・ 国際的な災害救助や医療技術支援については、<u>大学としての国際交流の一翼を担っていると思われるため、今後も幅広い分野での相互交流の発展を期待する。</u></p>
<p>修正理由</p>	<p>「国際的な医療活動や医療技術支援を推進する。」という中期計画に対して、平成19年度の年度計画は設定しておりませんが、附属病院において、外国からの医療技術者の研修を受け入れることで、医療技術支援を推進しております。</p> <p>※ 参考 JICA地域別研修「仏語圏アフリカ臨床検査技術コース」</p> <p>1 研修期間 ①平成19年8月27日～8月31日【5日間】 ②平成19年9月 3日～9月 7日【5日間】</p> <p>2 研修員 ①セネガル 医療技術者（臨床検査技師）2名 ②ブルキナファソ 医療技術者（臨床検査技師）2名</p>

<p>評価委員会 の対応 (案)</p>	<p>○修正文案 国際的な災害救助や医療技術支援については、大学としての国際交流の一翼を担っていると思われるため、<u>災害救助を含め</u>、今後も幅広い分野での相互交流の発展を期待する。</p> <p>○説 明 年度計画の設定項目ではないため、法人修正文案を上記文案に修正の上、提言に移行させる。</p>
------------------------------	--

評価委員会における提言に対する意見書

公立大学法人和歌山県立医科大学

項 目	【教育・研究の評価】
修正箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育・研究の最終評価の一つは附属病院における患者満足度である。例えば、<u>受診者からのクレーム数・内容の好転度、医師外来開始時間の厳守状況、外来待ち時間の短縮度</u>などを毎年比較検討し、改善状況を評価していく必要があると考える。</li> </ul>
修正内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育・研究の最終評価の一つは附属病院における患者満足度である。例えば、<u>医師や看護師等の対応状況や外来待ち時間の短縮度</u>などを毎年比較検討し、改善状況を評価していく必要があると考える。</li> </ul>
修正理由	<p>本院では、これまでの患者等から寄せられる意見を参考に、別紙のとおり継続して調査・検討していますので、項目について整合を図ることが適切と考えます。</p>

評価委員 会の対応 (案)	<p>○修正文案 法人の修正案どおりとする。</p> <p>○説 明</p>
---------------------	--

評価委員会における提言に対する意見書

公立大学法人和歌山県立医科大学

項 目	【財務分析】
修正箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務面においては診療収入の増加など一定の成果を上げているが、<u>診療収入増加の理由についてさらに分析を深める必要がある</u>。また、病床の効率的利用、材料費、エネルギー費の節減など、収支バランスの改善努力も引き続き行っていく必要がある。</li> </ul>
修正内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務面においては診療収入の増加など一定の成果を上げているが、<u>同増加に比して診療経費の増加が高いことから</u>、病床の効率的利用、材料費、エネルギー費の節減など、収支バランスの改善努力を引き続き行っていく必要がある。</li> </ul>
修正理由	<p>平成19年度の診療収入の増加については、前年度に比し患者数が増加していること、同じく手術件数も増加していること、更に化学療法センターを設置したことが大きな要因と考えております。</p> <p>一方、懸念される点としては、診療収入の増加に比して診療経費の増加、特に医薬品費の増加が大きいことです。このことから収支バランスの改善の問題として集約することが適切と考えます。</p> <p>※ 参考 診療収入の増加：5.8億円 3.2%増          診療経費の増加：4.3億円 4.2%増          医薬品費の増加：2.2億円 7.4%増</p>

<b>評価委員会 の対応 (案)</b>	<p><b>○修正文案</b></p> <p>財務面においては診療収入の増加など一定の成果を上げているが、<u>毎診療収入増加比率</u>に比して<u>診療経費の増加比率</u>が高いことから、          ……(以下略)。</p> <p><b>○説 明</b></p> <p>増加額ではなく、増加比率が高いことから、法人修正文案を上記のとおり修正する。</p>
------------------------------	--